

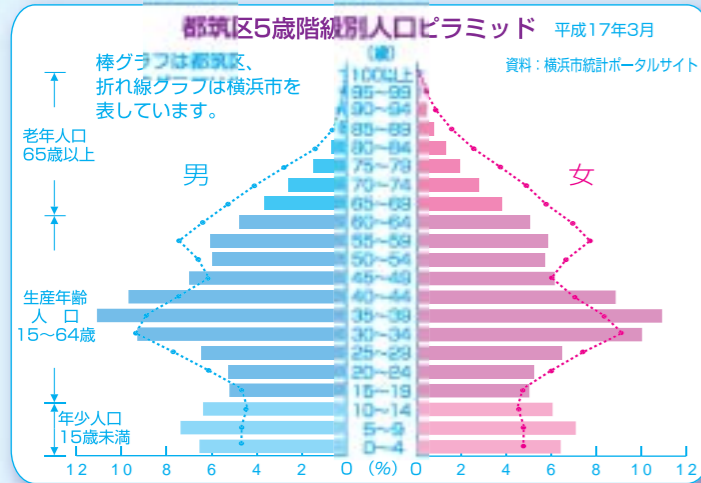
都筑区はこんなまち

都筑区の面積は27.88km²（市内18区中7位）、人口は緑区よりやや多く約17万6千人（市内18区中11位）です。

都筑区の現状

●「子育て世代」が多いまち

区民の平均年齢は36.6歳と市内（市平均41.4歳）で最も若く、乳幼児と子ども（0歳～14歳）が区の人口に占める割合は約20%（市内1位）になっています。



都筑区の福祉・保健関連データ（平成17年3月現在）
 介護認定者数（1号被保険者）2,804人（1.6%）
 （65歳以上人口に対する割合15.9%）
 身体、知的、精神障害児・者数4,027人（2.3%）
 外国人登録者数2,274人（1.3%）

都筑区の未来

●2025年まで毎年人口が増えるまち

市内の半数の区が、ここ数年で人口の減少を予測されているのに対して、都筑区は今後も人口が増加し、ピークを迎える2025年には約22万4千人に達すると予測されています。

●超高齢社会が到来するまち

2000年時点で全人口の20.1%を占めていた15歳未満人口は2010年頃をピークに減少に転じ、2030年では10.6%にまで低下します。一方、65歳以上人口は顕著に増加し、2030年には、25.9%にまで高まると予測されます。



資料：横浜市将来人口推計調査（区別推計）（平成17年2月）

VII 都筑区役所と 都筑区社会福祉協議会の行動計画

目標 1

区民による地域の福祉保健活動を支援します

課題

地域では既に様々な地域の支えあい活動が展開されていますが、「参加者が固定化している」「地域で活動をしていることを知らない」「活動できる場所がない」な

どの意見もあります。このため、参加者の掘りおこし、情報の収集・提供、活動場所の確保などができるような支援が必要です。

都筑区役所の取組

- 地域が取り組んでいる活動状況を共有し、情報の提供のあり方を地域と協力して推進します。
- 「地域で取り組んでいる活動や行政の取組の発表会」を開催し、情報の共有や相互交流を図ります。

都筑区社会福祉協議会の取組

- ボランティア等の各種情報紙、ホームページの内容を充実します。
- 社会福祉大会等をきっかけとして、福祉保健活動の輪を広げていきます。
- 区社協ボランティアセンターと区民活動センターが連携し、区内の様々な活動を支援していきます。
- 福祉保健団体間での交流や事業を協働し実施していきます。

目標 2

人と人とのつながりを実感できる地域づくりを支援します

課題

地域のつながりがうすくなっている中で、地域とのつながりを大切にしたいと考えている人々がいます。反面、地域とのつながりをわずらわしいと感じる人々もいます。地域とのつながりを押し付けるのではなく、「であい ささえあい わかちあい」を実感できる豊かな地域づくりが必要です。

都筑区役所の取組

- 区民一人ひとりが1か月で「30人の人とであう」キャンペーンを実施します。
- 「地域とのつながりの大切さについて」等を、健診等あらゆる機会をとおして伝えていきます。
- 児童や保護者に「地域とのつながりの大切さについて」等を、学校と連携し、伝えていきます。
- 自ら「困ったときの助け」を求められることができ、また「自分のできること」を地域で伝えられる関係づくりを推進します。
- 子ども、青少年、子育て中の人、高齢者、障害者と近隣の人々がお互いにふれあい、理解しあう機会をつくることを支援します。

都筑区社会福祉協議会の取組

- ボランティア活動をしたい人と、ボランティアを求めている人との橋渡しを行い、人と人とのつながりをつくっていきます。
- ちょっとした助けあいの輪が地域で広がるように、講座や啓発イベントの実施を通じて、ボランティアを増やしていきます。
- 地域福祉の推進を図っていくために、地域通貨が地域に広まっていくような取組等を支援していきます。



目標 3

地域活動の「担い手、受け手」の人や活動を結びつける人材育成を支援し、地域活動をさらに活発にします

課題

地域には、人のために何かをしたいと考えている人は多くいます。一方で、ちょっとしたことなどを「手伝って」となかなか言い出せない人もいます。それを結びつける人材を育成するとともに、「こんなことが困っているから手伝ってほしい」と誰もが気軽に言えて、ちょっとしたお手伝いができるような環境や、情報提供の仕組みを整備していく必要があります。

都筑区役所の取組

- 地域活動へ参加するきっかけづくりとしての講習会を開催し、ボランティア活動などを支援します。
- 地域で活動している人々がより活動しやすくなるためのコーディネート研修等を開催します。

都筑区社会福祉協議会の取組

- 住民の活動場所まで出向いて、地域活動をしていくために必要な手法、先進事例等を教える福祉出前講座を開催していきます。
- 各種ボランティア講座の開催を通じて、より多くの方々にボランティア活動を知っていただく機会を増やします。

目標 4

健康な暮らしづくりをすすめます

課題

健康な暮らしづくりは、活力のある地域社会をつくる重要な要素です。生活習慣病の予防につながる健康情報や区の特性である若い世代への健診機会の提供などが求められています。

都筑区役所の取組

- 若い世代が、自らの健康は自らで守る意識を育てるために、健診機会を提供します。
- 地場野菜をきっかけとした食育や運動など、地域で取り組む健康づくりをすすめます。



目標 5

子育て支援・青少年の育成支援を充実します

課題

都筑区は区民の平均年齢が若く、乳幼児や子育て世代が多いことから、区民が安心して子育てできる環境の整備が課題となっています。また、居住年数が短く、地域とのつながりが希薄な子育て世代が多く見られるため、家庭・地域・学校・行政等が協働して、地域全体で見守り、支えあう社会をつくっていく必要があります。

都筑区役所の取組

- 社会資源を活用するなど、身近な地域での親子の居場所づくりを充実します。
- 子育て支援の拠点を設置するなど、子育て支援情報提供の仕組みづくりをすすめます。
- 「家庭」と、「地域」の“育てる力”を向上させるための取組をすすめます。
- 子育て家庭と地域にいる様々な人々が交流する機や、身近な地域での仲間づくりを支援し、みんなで子どもと家庭を見守る環境づくりをすすめます。
- 障害の特性を理解した対応や配慮を行うとともに、障害児への理解を深める機会の充実に取り組みます。

都筑区社会福祉協議会の取組

- 「子どもを預かってほしい人」と、「子どもを預かれる人」が会員として登録し、会員相互の責任と信頼関係のもとに、子育ての支援を行う、横浜子育てサポートシステム事業を通して、子育て支援をすすめます。
- 青少年向けの職業体験講座を開催していきます。
- 児童・生徒が福祉に対する理解を深めるために学校と障害者、ボランティア団体等と連携して福祉教育を推進します。

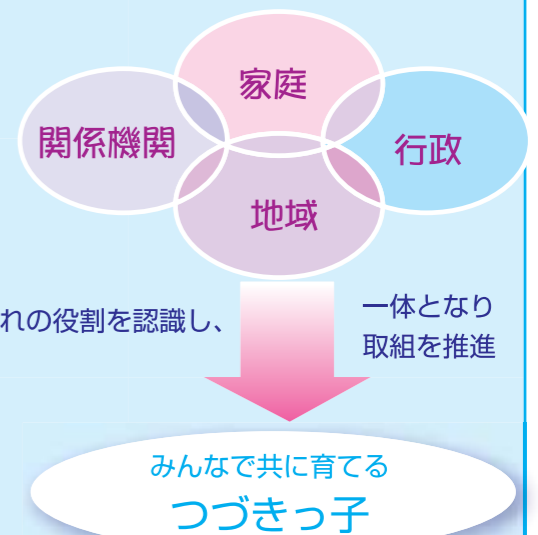
都筑区地域子育て支援 プランの概要

● プランの基本的な考え方

- 区民との協働、みんなでつくるまち
- 新しい子育てコミュニティづくり
- 大人も子どももより輝き、より豊かな人生がおくれる、ともに育つ社会づくり

● 基本的目標

- 子育てに楽しみや喜びが感じられる親子の居場所づくり
- 子育て支援情報提供の仕組みづくり
- 家庭や地域の“育てる力”の向上
- みんなで子どもと家庭を見守る環境づくり
- 障害児とその家族等への支援



都筑区役所と都筑区社会福祉協議会の行動計画

目標 6

高齢者・障害者が安心して暮らせる地域づくりをすすめます

課題

毎年多くの人転出入する都筑区では、居住年数が短いため地域社会との接点が少なかったり、なかなか地域の近隣関係が築けず不安を感じている高齢者や障害者がいます。また、現在の高齢化率は約10%ですが、今後、高齢化が急速に進展すると見込まれます。高齢者や障害者が地域とのつながりを持ち、安心して暮らせる地域づくりが必要です。

都筑区役所の取組

- 障害者の地域社会への参加を推進し、障害者が健康にいきいきと暮らし続けられるよう、「障害者と地域の人々との交流の場づくり」や「就労の促進」等に取り組めます。
- 高齢者が孤立しないよう、「地域住民の顔の見える関係づくり」を進めるとともに、認知症や虐待等に対する適切な支援に取り組めます。
- 高齢者が健康にいきいきと暮らし続けられるよう、地域において介護予防等の活動をしている自主グループの取組成果について発表の場を設け、意欲の向上を図ります。

都筑区社会福祉協議会の取組

- 行政と連携しながら、災害時における区社協の位置付け、役割を明確にした上で、ボランティア派遣体制等を整備していきます。
- さまざまな障害を理解するための各種講座を開催します。
- 移動困難者に対する移動支援や地域ボランティア送迎活動への支援、介助ボランティア育成などに取り組んでいきます。
- 成年後見制度を含めた権利擁護事業の地域展開を促進します。
- 障害者が地域において安定した自立生活が送れるよう関係団体、機関等との連携を強化し、事業展開を検討していきます。

都筑区地域福祉保健計画発刊にあたって

今回、「都筑区地域福祉保健計画」策定に参加させていただき、地域社会の助け合いの大切さを再認識しました。

人と人との「であい ささえあい わかちあい」これが私たちが、今回、計画を創るにあたり選んだ言葉です。都筑区の住民の皆様が、この言葉どおりに子どもたち、高齢者、障害を持つ人々に優しくふれあい、助け合えば、今以上に住みよい都筑区になるでしょう。

計画には、地域ごとにどのような助け合いが行われているかを、できるだけ具体的に記載してあります。皆様がこの冊子をお読みにになり、少しでも地域の活動に参加してみようと思ひ、顔を出していただければ計画が成功したことになるでしょう。住民の皆様参加を心よりお待ちしております。

都筑区地域福祉保健計画策定委員会委員長 大山学

「都筑区地域福祉保健計画」は、平成16年度から2か年をかけ、人と人との「であい ささえあい わかちあい」を基本理念とし、地域・団体・区役所が一体的に策定しました。

この計画の特長の一つである地域計画は、13連合町内会自治会エリアごとに開催した地域懇談会で、地域の皆様が主体的に、生活課題やそれを解決するための取組内容、地域の特色を活かした目標を定めたものです。都筑区では初めての地域ごとの計画であり、大変意義深いものです。

「計画」を実現していくためには、より多くの区民の皆様や関係団体が、これまで以上に自分たちの地域に関心を高めていただくとともに、区役所と協働して力を発揮していただくことが大切です。また、区役所もこの計画に基づき、福祉保健のまちづくりをすすめてまいります。

都筑区長 伊藤秀明

都筑区社会福祉協議会は、地域の方々「自分たちの地域は、自分たちで良くしていこう」という気持ちで組織している民間の社会福祉団体です。

都筑区役所が策定した「地域福祉保健計画」と本会が策定した「地域福祉活動計画」は、ともに地域福祉の推進をめざすものとして、連携しながら策定しており、今後の地域福祉推進についても協働して取り組んでいきます。

これからは、誰もが暮らしやすいまちづくりへ向けて、地域住民相互のたすけあいが重要だと実感しております。より身近な地域でお互いが、「であい ささえあい わかちあい」の基本理念を実現できるまちづくりを地域の皆様と一緒に推進してまいります。

都筑区社会福祉協議会会長 葛城静雄

目標 7

区民(地域)・団体・企業等と行政が、地域課題に対して協働で取り組む体制の充実を図ります

課題

「であい ささえあい わかちあい」のまちづくりを推進するため、お互いに目標に向けての取組状況を確認しあい、地域で関心の高い防犯、防災についても、協働の体制を充実していくことが必要です。

都筑区役所の取組

- 区民・団体等の自発的・主体的活動に対する支援の仕組づくりをすすめます。
- 地域課題を円滑に解決するため、職員の地域担当制を進め、地域の活動を支援します。さらに、区の職員一人ひとりが1か月で「30人の区民とであう」キャンペーンを実施します。
- 「であい ささえあい わかちあい」の視点を持ち、区民サービスにつとめます。
- 区民(地域)、関係団体、企業等と行政が協働して、「福祉保健のまちづくり」や、地域の防犯、防災の取組を推進します。

都筑区社会福祉協議会の取組

- 区内13の地区社会福祉協議会活動を支援し、地域課題に対応するために地区社会福祉協議会と協働して取り組みます。
- 善意銀行及び共同募金の有効活用を図るため、地域福祉推進に貢献する事業へのより効果的な配分・助成の仕組を検討していきます。
- 区内の全地域ケアプラザと共催して、地域住民に向けた事業を展開していきます。
- 民間企業向け福祉教育講座を開催していきます。
- 高齢者、障害者、子どもを含めて誰もが活用できるバリアフリーマップを地域の様々な団体と協働して作成します。

都筑区地域福祉保健計画策定委員

	氏名	団体名等
委員長	大山 学	区医師会
副委員長	海谷 嘉雄	区連合町内会自治会
	荒田 久美子	地区社会福祉協議会
	蛸名 さゆり	区障害児・者福祉団体連絡協議会
	菊賀 静子	区保健活動推進委員会
	木村 謙吾	区歯科医師会
	佐藤 栄子	区民生委員児童委員協議会
	田中 千津子	介護老人保健施設「都筑ハートフルステーション」
	田中 睦子	区薬師会
	永田 麗子	区友愛活動推進員
	堀 孝子	横浜市青葉区地域ケアプラザ
	松田 栄子	都筑区書センター 訪問看護ステーション
	望月 淳一	つづき地域活動ホーム「くさぶえ」
	横山 静江	区食生活改善推進委員会
	吉川 信江	区社会福祉協議会ボランティア部会
	吉野 富雄	主任児童委員
	渡邊 真弓	NPO法人 ワーカーズコレクティブ ふれあい都筑
	青柳 広美	公募区民
	網屋 正子	公募区民
	久野 宏	公募区民
	齊藤 禮二	公募区民
	藤村 松子	公募区民
	母良田いづみ	公募区民
	山田 裕子	公募区民
	川原 美智子	田園調布学園大学人間福祉学部
	岡部 利明	区社会福祉協議会
	一澤 恒夫	区福祉保健センター

五十音順 敬称略 平成18年1月現在